

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2023. 12
No.364

『考え方』

稲盛和夫 著

大きな志を持つこと

— 気高く、素晴らしい夢を描き、

追い続ける

信念

先が見えないなか、
目標を追い続けるには、
闇を照らす「光」が必要です。
信念という光があるからこそ、
その道を歩み続け、
成功にたどり着くことができます。

私流にこの「信念」を考えるならば『高い志』を常に持ち続け、その『高い志』は常に磨き、深くそして「より高い志」にしていかなければならないということです。

また、仕事という実践を通して真剣に一所懸命やり続けることによって、目標を達成できるのだと考えます。

イナテックは、2031年に創業80周年を迎えます。その時の目標は営業利益率8%です。ただ数値の目標だけでなく、それを達成するため、お客様の開拓をし、歯車加工技術を向上させ、イナテックグループ一丸となつて進めなければ達成するはずはないのです。

A/Tパワートレイン以外の分野としては、自動車ではEV(電気自動車)の部品や、AR S(安全走行)の部品に販路を広げ、非自動車分野としては、NC旋盤の部品やHB盤(歯切盤)の部品などの受注も始まりました。また、中型or大型ロボットの歯車の受注も期待が持てます。この大型ロボットは、日本独自の肝入りで経産省が主導し、国家プロジェクトとして立ち上げるものです。

日本の小型ロボットは、中国のスピードと低価格に敗戦を期しております。しかし、今後大型ロボットのニーズは莫大な市場がある

ことが分かっており、その要となる大型ロボットのその歯車は、大変重要部品となる訳です。その分野においては、他国の追従を許さない歯車加工技術をイナテックが身につけ、日本国攻守プロジェクトを成功させる立ち位置にいます。

イナテックグループ全社で、歯車加工技術をより高度に磨き上げ、生き残ろうではありませんか。

動機が善、つまり美しい心から発したものであれば、結果は必ず良くなる。逆に動機が不純では絶対にくまくいくはずがないと私は信じていました。

「世のため人のため」という思いだけでした。その純粹で美しい思いのもと、一意専心、努力を続けたことこそが、成功の最大要因だと考えています。

これからの日本を担う若い人たちには、ぜひ信念の持つ力を信じてほしいと思います。限りなく純粹で強烈な信念を胸に、ひたむきに努力を重ねる。そのような「考え方」のもと、懸命に生きること、人生

はより実り多きものになるのみならず、この社会も豊かで美しいものになるに違いありません。(稲盛、2022)

「世のため人のため」つまり、人間は自分一人では生きていくことができない生き物なのです。地球や自然そして宇宙があるからこそ人間という生命があり、そして身近な周りの人に助け・助けられて、お陰様で生きておられ、生かされているということを忘れてはならない、自覚せねばならないことなのです。

つまり利他の心が必要な訳です。利他の心とは「他人の喜びを自分の喜びとする」心です。自分のことだけを考えるのではなく、相手の人を助けてあげたり、また相手の人に親切にしてあげた度合いに応じて、その愛は自分に返ってきます。そんな『美しい心』を持ったイナテック社員集団にしたいと思っています。

自分の周りの人だけでなく、生き物や地球環境に対しても利他の心は通じるものです。

今年一年社員の皆様、また御家族の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。

今年の始めは、売上が急激に下がりこのままでは立ち行かなくなるという非常に危険な状態でしたが、イナテック社員の皆さんの努力とお客様の頑張りで持ち直すことが出来、本当に感謝いたしております。

半導体不足やコロナ禍の問題も解決に向かつており、EV化の波も冷静に考えられるような空気も出てきております。

来年の予想は楽観できませんが、今年後半の水準が維持できそうという情報を得ており、イナテックの経営体質を強化できるチャンスが、2024年と考えております。2023年度にまい種に水をやり、肥料をあげて成長させるのが2024年度です。できれば、少しでも新種の収穫をしたいと思っております。

来年もよろしくお願い申し上げます。

社長 稲垣良次



菜根譚後集

九五

以我轉物者、得固不喜、失亦不憂、大地盡屬逍遙。以物役我者、逆固生憎、順亦生愛、一毛便生纏縛。

我みずからが主で、外物を従として使役する者(君子)は、成功したとて、もともとさほど喜ばず、失敗しても、またさほど心配もしない。そして、この広大な地上もすべて悠々として自適するの地としている。(これに反し)、外物が主で、我は従として使役される者(小人)は、逆境には、もともと思うに任せないので怒りやすくなり、順境にもまた、ようやくかなえられた願いごとに執着する。そして、毛すじほどの事がらでも、すぐそれに束縛されている。